

子どもが「しあわせ」・保護者も保育者も「しあわせ」な堀ノ内子供園
杉並区教育ビジョン2022「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現をめざし、遊びの中の学びを中心とした質の高い教育保育を行います

園長 大塚 玲華

【教育目標】一人ひとりの幼児が、主体的に遊びや生活を通して豊かな体験を積み重ね、様々な人や友達と関り、健康で人間性豊かな子どもに育つことを目標とする。

○いきいきとあそぶ子

○こころゆたかな子

○よくかんがえる子

【堀ノ内子供園の経営方針】

- 保護者と保育者が幼児を中心に連携し、育ちについて考えたり、共に育てる喜びを感じられたりするように、信頼やつながりを大切にします。
- 幼児が自発的な活動としての遊びに夢中になって取り組む中で、周囲の事物や人と多様な関わり方をし、充実感や満足感を味わいながら生きる力の基礎が培われるようにします。
- すすんで体を動かし多様な動きを経験したり、生活に必要な習慣や態度を身に付けていったりし、健康な心と体が育まれるようにします。
- 園庭や近隣の豊かな自然に触れ、心を動かす中で、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情や科学的な見方・考え方の基礎などが培われるようにします。
- 発達に応じて ICT 機器を補完的に活用し、直接的な体験では得られない新たな気づきを得たり、体験で得られたものを整理したり共有したりするなど、幼児の生活体験がより豊かになるようにします。
- 幼児一人ひとりが自分らしさを出しながら、生き生きと園生活を送る中で、互いを尊重し受け入れ合う関わりができるようにします。
- 保育者や様々な友達と関わる中で、自分の思いを出しながら、自己の存在感を味わったり、一緒に活動したりする楽しさを味わう体験を重ね、人と関わる力が育まれるようにします。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に園内委員会を開催し、個別指導計画の作成や情報共有を図り、教職員や家庭、関係機関が協力、連携することで、幼児が自分らしさを出しながら、集団の中で全体的に育つことができるようにします。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼稚園教員と小学校教員が共に子どもの成長を長期的な視点で捉え理解し、それぞれの教育活動を充実させるとともに、交流活動を通して幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図ります。
- 長時間保育では、生活時間の長さに配慮した活動の組み立てと環境を整え、それぞれがやりたい遊びを楽しむ中で、異年齢の幼児が共に過ごす楽しさを味わえるようにします。

【研究】

教育課題研究

研究主題

「遊びを通して探究する幼児を育てる」
～幼児の場づくりに着目した保育者の援助や環境の工夫～
○子供園での3年間の保育を通した幼児の発達や遊びの実態・内容に応じた、場の作り方、遊びと遊びが有機的に関連する場の配置などを考えながら援助や環境の工夫を行うことで、遊びが充実し、探究する幼児が育つようにします。

すくわくプログラム

テーマ

「表現（絵本）」

○絵本の世界に触れる中で、イメージを膨らませたり、感じたりしことを、製作、音楽、言葉にしたり、遊びに取り入れたりすることができるようにします。その中で考えたり工夫したりしながら様々な形で表現する楽しさを味わえるようにします。

【教育活動】

1. 興味関心に基づく直接体験を通した活動（自ら取り組む遊びを中心とした教育）

- ・自然豊かな園庭を生かした遊びや活動
- ・様々な教材や素材、用具等を利用した構成遊びや製作
- ・社会性やコミュニケーション力、協調性など様々な力が身に付く遊びや活動
- ・鬼ごっこなどの運動遊び

2. 集団の中で人とつながり協同すると共に、規範意識や道徳性の芽生えを培う活動

- ・自らの考えや思いを表現し、友達の様々な考えに触れながら協同する遊びや活動
- ・学年を越えた交流
- ・学級のみんなでする活動

3. 健康な心と体を創る教育活動・安全教育

- ・園庭やホールでの運動遊び、杉並体づくりキャラバン講師による運動遊び
- ・看護師と連携した保健指導・近隣への散歩・プール活動

4. 地域や保護者との関わり合い、触れ合いを大切にした活動

- ・保護者ボランティア（読み聞かせ・行事参加など）・保育参加参観
- ・未就園児の会「アイアイ」・子育て相談
- ・なでしこフェスティバル参加
- ・獅子舞
- ・ひな祭りお茶会
- ・カレーパーティの食材の買い出し

5. 伝統行事活動：日本に古くから伝わる行事の由来を知り、製作や交流を楽しむ活動

- ・こどもの日、七夕、節分、ひな祭りなど、日本の伝統文化に触れ、由来を知ったり、遊びに取り入れたりする活動

6. 食材栽培・食育活動

- ・様々な季節の野菜の栽培・収穫・調理（食べ物への興味関心をもち、食べる喜びや楽しさを味わえる活動）

7. 幼保小中の連携を図り、学びの基礎を培う活動

- ・大宮小学校との交流・連携教育や施設活用
- ・中学生による職場体験活動

【情報の公開・発信】

- ・キッズビューによる園だより、学年だより、保育の様子配信
- ・ホームページ、掲示による情報発信

【子供園 自己評価の充実】

- ・行事や保育について保護者からの評価を聞き、改善に努めます。

【質の高い教育・保育を行う保育者として】

- 「子どものために」を軸に考え行動します。
- ・幼児の育ちのために、どのように行動することが一番良いのかを常に考え実行することができるようにします。
- ・一人ひとりの幼児理解を丁寧に行い、受容的・応答的な保育を行います。
- ・一人ひとりの人権やその子らしさを尊重した保育をします。
- ・保護者と幼児の育ちや教育内容を共有し、共に育て、成長を喜ぶことができるようにします。
- ・職員間の情報共有や連携を大切にし、園全体で幼児の育ちを支えられるようにします。
- ・研修や研究に参加し、学びを共有し、園全体の保育力の向上に努めます。
- ・地域と連携した教育資源の活用を行い、園の教育・保育の充実につなげるようにします。
- ・質の高い教育・保育のために、心身が健康であるようにします。
- 教育公務員として自覚と責任をもち行動します。
- 高い危機管理意識をもち、細やかで、迅速な対応を行います。